



防災推進国民大会 2019 セッション 「女性パワーが生きる地域防災」

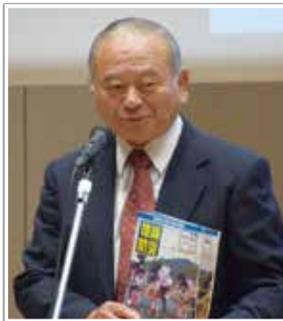
日本消防協会

令和元年10月19日(土)と20日(日)の2日間、愛知県の名古屋市ささしまライブエリアを会場として、内閣府、防災推進協議会及び防災推進国民会議の主催による「防災推進国民大会2019」が「大規模災害に備える—まなぶ、つながる、つよくなる—防災を、もっと日常に」をテーマとして開催されました。

その中で、日本消防協会は、1日目の19日(土)、名古屋コンベンションホール3階メインホールBにおいて日本防火・防災協会との共催で「女性パワーが生きる地域防災」と題したセッションを開催しました。

このセッションは、地域の実情を熟知し、日常生活に豊かな知恵を持つ人、特に女性のパワーは地域防災力の充実強化に不可欠であり、濃尾地震、伊勢湾台風などを経験した名古屋で、女性の皆さんからこれまでの経験や思い、ご意見を自由に述べて頂き、「女性パワーが生きる地域防災」の一層の進展を目指そうというもので、250人を超える方々がご参加されました。

開催に当たり日本消防協会及び日本防火・防災協会の秋本敏文会長から、台風第19号により被災された方々へのお見舞いと犠牲になられた方々へのご冥福をお祈りするとともに、この数年の様子を見ると災害というのはこれまでと様相が変化し、全国いつでもどこでも何でもある位の覚悟をもって日頃から備えていかなければならないこと、いろいろな災害



秋本敏文
日本消防協会会長
日本防火・防災協会会長

の体験例をみても女性の皆さんのお知恵やお力が大変重要であることを痛感すること、地域を原点にしながらみんなで力を合わせ、男女を問わず一人一人できることはやっていくことで何とか生き延びていくことではないか、最後まで話を聞いていただき、この時間が充実したものになるよう願っていますとの挨拶がありました。

セッションでは、基調講演とパネルディスカッションを行いました。

【基調講演】

「女性の視点を地域防災に活かそう」

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科
准教授 阪本 真由美 氏

女性の視点をどうやって地域防災に活かしていくのかという視点でご講演頂きました。



阪本真由美
兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科
准教授



基調講演「女性の視点を地域防災に活かそう」

【パネルディスカッション】

○コーディネーター／阪本 真由美 氏

○パネリスト

名古屋市名城消防団

香川 絢子 氏

愛知県婦人消防クラブ連絡協議会会長

永坂 幸子 氏

名古屋市南区赤坪町自主防災会長

山田 一枝 氏

愛知県消防学校教務課長

則武 聖子 氏

総務省自治財政局地方債課課長補佐

(前総務省消防庁総務課課長補佐)

南里 明日香 氏

パネリストの皆さんから、日頃どういう活動をされているのかご自身の経歴も含めてご紹介してもらった後、どうしたら女性が防災に参画してくれるのか、そのためにはどうすべきかを会場の参加者の方々も交えながら活発な意見交換が行われました。

セッションの成果として、会場参加者の方々のご賛同を得て、決意表明が決定されました。

最後に秋本会長から、今日のいろいろなお話を自分なりに受け止めていただき、そしてこれからの日頃の活動の中で活かしていただければありがたいとの挨拶があり、盛会のうちに閉会しました。



パネリストの皆さん



パネルディスカッションの様子



セッションの成果として決意表明を決定

決意表明

近年、思いがけない災害が多発しているが、どんなことがあっても生命を守り抜くことができる消防防災体制を構築しなければならない。

この時に私たち女性のパワーは大いに活かされなければならない。災害発生時も、その後の避難生活、復興への歩みにおいても、女性のもつ人と人とのつながりの強さ、地域の実情に関する深い知識、女性ならではの生活の知恵、これらは一人一人が無事に生きていくうえで極めて重要である。

災害を学び、地域で考え、そしてみんなで一緒に行動して、女性パワーを最大限活かし、地域の皆さんの安全を守るよう、私たちは努力する。

令和元年10月19日

防災推進国民大会2019

セッション「女性パワーが活きる地域防災」